

■ 資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する 文献リスト (2023)

田中 秀男
(関西大学)

並木 崇浩
(愛知淑徳大学学生相談室)

青木 剛
(南山大学)

要約

本論文は、2023年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A.書籍、B.研究論文、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

はじめに

坂中および田中・並木・青木は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究,

- 17, 113-121.
2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
 3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
 4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
 5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
 6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
 7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
 8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
 9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
 10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
 11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
 12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
 13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
 14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
 15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
 16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
 17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.

18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2008) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.
28. 坂中正義 2019 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 18, 115-137.
29. 坂中正義 2020 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 123-149.
30. 坂中正義 2021 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2020) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 181-206.
31. 田中秀男・並木崇浩・青木剛・坂中正義 2022 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2021) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 22, 65-84.
32. 田中秀男・並木崇浩・青木剛 2023 日本におけるパーソンセンタード・ア

アプローチに関する文献リスト(2022) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 23, 81-97.

本論文では、これらの論文の続編として、2023年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2023年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文¹、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2022年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2023年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本であった。「B.研究論文」は15本であった。「C.学会発表」は14本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2023年における「来談者中心療法」の特徴は、セラピストの成長や養成を論じた研究(B-3、B-6、B-8、C-4)の本数が充実したことであろう。

¹ 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

A.書籍

1. 大谷佳子 2023 対人援助の現場で使える 傾聴する・受けとめる技術 便利帖 翔泳社

B.研究論文

1. 青木剛・解良優基 2023 教育領域におけるパーソンセンタード・アプローチの再考: 坂中先生からのバトンを受けて アカデミア. 人文・自然科学編, (25), 227-239.
2. 広岡義之 2023 『十牛図』と「十分に機能する人間」(ロジャーズ)の教育哲学の一考察 神戸親和女子大学大学院研究紀要, 19, 29-44.
3. 草岡章大 2023 初任セラピストの自己開示と職業的発達: 臨床場面における主観的体験の質的研究 北海道大学博士論文
4. 宮澤道子 2023 パーソン・センタード・アプローチについてポジティブ心理学的観点からの考察—Joseph (2015)の論考を中心に— 心理学叢誌, 23, 7-13.
5. 中田行重・松下ひかり・衣川透子・須賀智也 2023 対話系パーソン・センタード・セラピーによるPTSDの治療論: Murphy (2009)の紹介と考察 関西大学心理臨床センター紀要, 14, 53-63.
6. 並木崇浩 2023 パーソン・センタード・トレーニング: 「Contemplative Dialogue Method」の開発: a way of being としての価値観の探求と統合を目指して. 関西大学心理臨床センター紀要, 14, 43-52.
7. 並木崇浩 2023 パーソン・センタード・セラピストとして倫理的であることに関する一考察. 関西大学心理臨床センター紀要, 14, 35-42.
8. 並木崇浩 2023 パーソン・センタード・セラピストの成長に関する研究: 自己・哲学・統合に着目した理論的探求とトレーニング法の開発 関西大学博士論文
9. 大野愛哉 2023 知的障害のある高校生に対するカウンセリング: 特別支援学校におけるスクールカウンセリング実践事例を通して 九州生活福祉支援研究会研究論文集, 17(2), 23-39.
10. 白崎愛里・並木崇浩 2023 他者の倫理に基づくセラピーとは: Goodman et al.(2010)“The Heroic I”の紹介. 関西大学心理臨床センター紀要, 14, 23-33.
11. 津田尚子 2023 当事者視点から考える共感 関西女子短期大学紀要, 33, 41-48.
12. 浦田優子 2023 自己超越を促すセラピストの態度についての検討: パーソンセンタードセラピーの中核条件を用いて. 法政大学大学院紀要, (90), 20-27.
13. 若狭和真・押岡大覚 2023 共感性プロセス尺度の変化を指標とした 学部

- 公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察 聖泉論叢, 30, 51-66.
14. 山田俊介 2023 カウンセラーの一致の意義と課題—カウンセラーが有りのままであるということ— 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻心理臨床相談室紀要, 2, 25-41.
 15. 吉見帆乃花・押岡大覚 2023 共感経験の変化を指標とした学部公認心理師候補生による 試行カウンセリングに関する一考察 聖泉論叢, 30, 67-78.

C.学会発表

1. 井出智博・蔵岡智子 2023 Person-Centered Approachと社会正義を巡る議論に関する論点の外観 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 93.
2. 泉野淳子 2023 「ハーバート・ブライアンの事例」(Rogers, 1942) キリスト教の観点からの検討—創作仮名の意味— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 72.
3. 加藤碧子・山田美穂 2023 心理療法におけるクライアントの真正性 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 123.
4. 河崎俊博・永野浩二 2023 心理臨床家のPersonal Developmentをめぐる実践 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 53.
5. 熊谷萌 2023 傾聴実習における“あじわい”に着目した「聴く」ことの検討 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 107.
6. 水野節子 2023 NVC (Nonviolent Communication) がもたらす「一致」 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 83.
7. 中田行重・上西裕介・矢野キエ・金子周平・岡村達也 2023 自主シンポジウム：わが国におけるPCTの研究 —今後の展開のために何をすべきか— 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 366.
8. 並木崇浩・小野真由子・古賀なな子・田中将司・新村信貴・山根倫也・森岡正芳 2023 自主シンポジウム：若手が考える人間性心理学研究のあり方 —これからの担い手が抱く危機感と展望— 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 373.
9. 並木崇浩・白崎愛里 2023 パーソン・センタード・セラピーの臨床観に関する理論的検討 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 54.
10. 押江隆 2023 主訴を語らないクライアントのパーソン・センタード・セラピー 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 42.
11. 坂岡大路 2023 「親の信仰と葛藤する子」との関わりにおいて非指示的な他者の存在がもたらす意味 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 63.

12. 白井祐浩・北田朋子・中山幸輝・濱村星花 2023 自主シンポジウム：「私の臨床」を振り返るセラピスト・センタード・トレーニング体験と語り合い 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 44.
13. 田代順 2023 「多声的来談者中心療法」としてのナラティブ・アプローチ— 一体一の面接で(も)活用できる多声化実践— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 75.
14. 上西裕之・斧原藍・中田行重 2023 パーソン・センタードの態度得点の高いセラピストから見たクライアントの変化 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 102.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2022）「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」の追録

A. 書籍

1. 原田誠一 2021 精神療法の基礎と展開—「受容～共感～一致」を実践するために 金剛出版

B. 研究論文

1. 水野行範 2004 パーソンセンタード・アプローチに基づく学校カウンセリングと教育実践力に関する臨床教育学的研究 武庫川女子大学博士論文
2. 大石英史 2006 クライアント中心療法におけるセラピストの「自己一致感」の臨床的有効性 東亜大学博士論文
3. 菅村玄二 2008 構成主義によるクライアント中心療法の再構築 早稲田大学博士論文
4. 岡田珠江 2015 自己表現・自己洞察を促進する描画手法の開発：クライアント中心療法による思春期青年期の心理臨床を中心に 日本女子大学博士論文

C.学会発表

[該当文献なし]

D.翻訳

[該当文献なし]

E.海外文献紹介

[該当文献なし]

F.書評

[該当文献なし]

第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2023年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は45本であった。「C.学会発表」は15本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は2本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は1本であった。

2023年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、ジェンドリンの主著『プロセスモデル』の全訳(D-2)が公刊され、それに関する企画(C-8)が臨床家諸氏によって学会で行われたことは日本のフォーカシング研究の理論面において大きな節目だったと言えよう。

また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニュースレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A.書籍

[該当文献なし]

B.研究論文

1. アン・ワイザー・コーネル 2023 国際交流コーナー：フォーカシング・リソース The Focuser's Focus, 26(3), 16-18.
2. 阿世賀浩一郎 2023 自由投稿：ゲーム「ウマ娘」とフォーカシング The Focuser's Focus, 26(3), 12-15.

3. 伊達山裕子 2023 JCFA子どもとフォーカシング:「こころの人間もよう」～心の中をかき出してみると～ The Focuser's Focus, 26(2), 7.
4. 伊達山裕子 2023 自由投稿:「怒りとフェルトセンス」の出店に参加して The Focuser's Focus, 26(3), 9.
5. 土井晶子 2023 自由投稿:「ホールボディっぽいフォーカシング」をやってみた The Focuser's Focus, 26(3), 10.
6. 江端舞 2023 マインドフルネスヨガと日常生活におけるフォーカシングの体験過程:身体感覚の気づきに注目して 東洋英和大学院紀要 19 21-40.
7. 星加博之 2023 リレー連載:研究者の数珠繋ぎ The Focuser's Focus, 26(1), 8-10.
8. 伊藤義美 2023 からだの感じ方式による心の空間づくり(フォーカシング指向ボディ・スキャン)から入るフォーカシングの検討-身体指向的アプローチとの関連- 人間環境大学「人間と環境」, 18, 1-20.
9. 伊藤義美 2023 フォーカシングにおける気がかり方式による心の空間づくりの検討 人間環境大学「人間と環境」, 19, 1-12.
10. 加藤敬介 2023 リレー連載:研究者の数珠繋ぎ「フォーカシングとクライエント中心療法を「知覚」の観点から捉えなおす The Focuser's Focus, 26(2), 10-12.
11. 加藤敬介 2023 自由投稿:“怒り”について考えた2時間 The Focuser's Focus, 26(3), 9.
12. 河崎俊博 2023 リレー連載:研究者の数珠繋ぎ The Focuser's Focus, 25(4), 3-5.
13. 北川眞羽・押岡大覚 2023 フォーカシング的態度の変化を指標とした 学部公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察 聖泉論叢, 30, 35-50.
14. 小坂叔子 2023 国際交流コーナー:ローリー・ラパポートさんとの交流会ご報告・対等で温かい、人間同士の交流 The Focuser's Focus, 25(4), 6.
15. 久羽康 2023 身体の声と感情(フィーリング):フォーカシングと感情 精神療法 49(2), 203-206.
16. 李明 2023 般若心経(フォーカシング解説版) The Focuser's Focus, 26(2), 9.
17. 三木健郎 2023 JCFA子どもとフォーカシング:「運動会での子どもの成長を見守って」 The Focuser's Focus, 25(4), 2-3.
18. 流一世 2023 自由投稿:俺たちの 怒り どこに 向かうべきなのか 尾崎豊『卒業』より The Focuser's Focus, 26(3), 9-10.
19. 中村匡男 2023 自由投稿:フォークオル:生き生きとした日々を見つける QOL interview focusingに参加して The Focuser's Focus, 26(3), 11.
20. 仁田公子 2023 国際交流コーナー:アニエス・ウインドラムさんを囲んで

- The Focuser's Focus, 26(1), 10-11.
21. 仁田公子 2023 生きる知恵としてのジェンドリン哲学と仏教 The Focuser's Focus, 26(2), 8.
 22. 岡村心平 2023 国際交流コーナー：李明先生によるセミナーを開催しました（10/1） The Focuser's Focus, 26(3), 19.
 23. 大澤美枝子 2023 国際交流コーナー：バラとの思い出 The Focuser's Focus, 26(1), 12.
 24. 大澤美枝子 2023 国際交流コーナー：TIFI主催のウェビナーとアン・ワイザー・コーネルのコメント The Focuser's Focus, 26(3), 16.
 25. 大月かおり 2023 自由投稿：集いin福岡『「ホールボディ」っぽいフォーカシングをやる』出店に参加して The Focuser's Focus, 26(3), 10-11.
 26. 笹田晃子 2023 自由投稿：第5回『ジェンドリン哲学や仏教を体験的に語り合おう—縁起とプロセスモデル—』のご報告 The Focuser's Focus, 26(2), 8.
 27. 笹田晃子 2023 自由投稿：赤ちゃんとフォーカシング(2)—“ミラーリング”の視点から— The Focuser's Focus, 26(3), 4-5.
 28. 笹田晃子 2023 自由投稿：出店「第6回 ジェンドリン哲学や仏教を体験的に語り合おう～怒りとフェルトセンス～」のご報告 The Focuser's Focus, 26(3), 8.
 29. 四方典裕・吉田浩子・藤原宏子 2023 若年医療従事者における職業性ストレスと就労中の心拍数の関連 心身健康科学 19(1), 1-11.
 30. 高沢佳司 2023 私的自己意識および自己没入を上位概念としたモデルにおけるフォーカシング的経験テキスト改訂版と構造拘束度との関連 皇學館大学紀要, 61(1), 167-152.
 31. 田村隆一 2023 夢フォーカシングの理論と実践 福岡大学研究部論集 B：社会科学編, 13, 17-35.
 32. 田中秀男 2023 縁起をめぐる仏教とジェンドリン哲学との対話 The Focuser's Focus, 26(2), 8.
 33. 田中秀男 2023 自由投稿：パターン化された怒りと状況全体を感じ取るフェルトセンス The Focuser's Focus, 26(3), 8.
 34. 田中秀男 2023 国際交流コーナー：フォーカシング・プロジェクト・グループ1 The Focuser's Focus, 26(3), 16.
 35. 得丸智子 2023 シンボル生成のプロセスモデル 開智国際大学紀要, 22, 121-134.
 36. 土江正司 2023 縁起をめぐる仏教とジェンドリン哲学の対話 The Focuser's Focus, 26(2), 9.
 37. 土江正司 2023 自由投稿：「怒りとフェルトセンス」発表に寄せて The Focuser's Focus, 26(3), 8.
 38. 鶴田久美 2023 JCFA子どもとフォーカシング：「子どもたちに学んできた

- 多くのこと」 The Focuser's Focus, 26(1), 6-7.
39. 内田香代子 2023 自由投稿：「2023年度日本フォーカシング協会年次大会」に初めて参加して The Focuser's Focus, 26(3), 6.
 40. 八木信盛 2023 国際交流コーナー：フォーカシングとプロセスモデル The Focuser's Focus, 26(3), 19.
 41. 八木橋栄二 2023 国際交流コーナー：ローリー・ラパポートさんとの交流会ご報告・感想 The Focuser's Focus, 25(4), 7.
 42. 山口文子 2023 勤労者における「漸進的使命感尺度」を用いた面接技法と面接過程 フォーカシング的面接とポジティブ心理学の観点から 保健医療科学, 72(2), 143-151.
 43. 山本裕真 2023 自由投稿：不安と安堵と気づきのワーク初出店～粘土でアートフォーカシング フォーカサーの集いin福岡～ The Focuser's Focus, 26(3), 7-8.
 44. 矢野キエ・小松原智子 2023 ピアで行うセラピスト・フォーカシング—自由に語ることから生まれてくるもの— 大阪キリスト教短期大学紀要, 64.
 45. 吉水ちひろ・小泉瑠菜 2023 コミュニケーションにおける共感的な自己表現について—体験過程尺度からの一考察— 仁愛大学附属心理臨床センター紀要, 18, 29-40.

C.学会発表

1. 福盛英明・青木剛・森川友子・竹田悦子・平野智子・永野浩二 2023 EXPスケールの段階に関連する音声情報の研究—文献からの検討とアクションリサーチによる仮説生成— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 105.
2. 池見陽 2023 大会主催ワークショップ：フェルトセンス革命とフォーカシング 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 34.
3. 池見陽 2023 フォーカシング指向心理療法とは如何なる療法か、そしてそれを補うのは何か 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 70.
4. 今井紀恵・酒井久実代 2023 IFCを用いた面接の深さとフォーカシング的態度の関連性 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 101.
5. 児玉龍治 2023 PCAの源流についての検討(2)—正木正及び京都大学グループによるロジャーズ理論のわが国への導入をめぐる— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 55.
6. 越川陽介・小泉隆平・山崎暁・加藤敬介・池見陽 2023 自主シンポジウム：医療領域におけるフォーカシング指向心理療法の実践 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 48.
7. 栗野理恵子 2023 受容的音楽聴取後の感情状態と内受容感覚および

フォーカシング的態度との関連 日本心理学会大会発表論文集, 87, 693.

8. 村里忠之・高橋寛子・吉良安之・飯島秀治・森岡正芳・末武康弘・得丸智子 2023 準備委員会企画プログラム：『プロセスモデル』が開く時空 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 28.
9. 岡村心平・古井戸祐樹・田中秀男・小室弘毅 2023 自主シンポジウム：教育思想としてのジェンドリン哲学：その展開の可能性 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 49.
10. 酒井久美代 2023 インタラクティブ・フォーカシング指向カウンセリングの効果 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 96.
11. 高橋茜・谷原弘之・今里有紀子 2023 大学生の愛着スタイルとフォーカシング的態度がアレキシサイミア傾向に与える影響 岡山心理学会大会発表論文集, 70, 49-50.
12. 内田利広・河崎俊博・小泉隆平・星加博之・岡村心平・小松貴弘 2023 自主シンポジウム：フォーカシング指向心理療法における体験の取り扱いについて -体験過程における過去・現在・未来- 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 387.
13. 内田利広・河崎俊博・小泉隆平・平野智子・辰巳朋子・越川陽介・山根英之・星加博之 2023 持続可能なフォーカシング体験室をめざして—10年以上続く京都フォーカシング体験室の取り組み— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 71.
14. 矢野キエ・小松原智子 2023 ピアで行うセラピスト・フォーカシング—自由に語ることから生まれてくるもの— 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 52.
15. 吉井真也・森川友子 2023 日常的なフォーカシング的態度と過敏型自己愛傾向を有する人の幸福感との関連 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 78.

D. 翻訳

1. Gendlin, E.T. (末武康弘, 吉森丹衣子, 酒井茂樹, 小林智, 宮田はる子, 小田友理恵, 大迫久美恵, 高沢佳司, 浦田優子訳) 2023 パターンを超えて思考すること：身体、言語、状況：Gendlin, 1991 (その5) 現代福祉研究, 23, 125-130.
2. Gendlin, E.T. (村里忠之, 末武康弘, 得丸さと子訳) 2023 プロセスモデル：暗在性の哲学 みすず書房

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 久羽康 2023 書評 内田利広著『フォーカシング指向心理療法の基礎：カウンセリングの場におけるフェルトセンスの活用』 人間性心理学研究, 40(2), 133-135.

付：同リスト（～2020）「第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 山田美穂 2021 心理臨床におけるセラピストの身体を通じた共感：ダンス／ムーブメントとフェルトセンスの活用 学習院大学博士論文
2. 久羽康 2022 心理療法における主体の2側面：有機体的反応性と真摯な認識 大正大学カウンセリング研究所紀要, 45, 15-24.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているも

のを収録した²。

2023年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は2本であった。「C.学会発表」は2本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 菱谷康代 2023 ベーシック・エンカウンターグループの体験報告とその考察. 跡見学園女子大学心理学部紀要, 5, 57-65.
2. 本山智敬 2023 エンカウンター・グループの初参加者への自発性に焦点を当てた: ファシリテーション仮説の策定 福岡大学研究部論集B: 社会科学編, 13, 53-66.

C.学会発表

1. 永野浩二・本山智敬 2023 大会主催ワークショップ: ベーシックエンカウンターグループ 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 39.
2. 野田諭・大島利伸・本山智敬 2023 人間尊重のありかたを伝えていくために～PCAのグループ実践からできることを考える～ 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 47.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

付: 同リスト (～2022) 「第Ⅲ部: ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

² なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 畠瀬稔 1990 エンカウンター・グループによる心理的成長と教育 京都大学博士論文
2. 平山栄治 1996 エンカウンター・グループにおける個人の経験の過程とそれがもつ心理的成長への意義に関する研究 九州大学博士論文
3. 松浦光和 2001 エンカウンター・グループによる個人の変容過程 東北学院大学博士論文
4. 大友秀人 2011 構成的グループエンカウンターにおける全体シェアリングの体験過程 東京成徳大学博士論文
5. 鈴木研司 2018 エンカウンター・グループにおける心理的成長に関する効果と過程について 青山学院大学博士論文

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2023年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本であった。「B.研究論文」は5本であった。「C.学会発表」は6本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2023年における「その他」の特徴は、2023年における「その他」の特徴は、

PCAとオープン・ダイアログとの対照研究（A-1、C-4、C-5）やPCAGIPに関する研究（A-1、B-2、B-3、C-3、C-6）の本数が充実したことであろう。

A.書籍

1. 本山智敬・永野浩二・村山正治 2023 パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアログ：対話・つながり・共に生きる 遠見書房

B.研究論文

1. 青山春華・白井真由美・奥井伸輔・瀬戸亜美・三國信夫・浅井由剛・早川克美 2023 就職活動生の内省を促す対話カードの開発 京都芸術大学紀要, 27, 20-34.
2. 藤中隆久 2023 PCAGIP 法の二つのルールの考察. 熊本大学教育実践研究, 40, 73-81.
3. 押江隆・石川智香子・岩野光・葉柴由佳・堺香穂・高橋享輔・柳原真子 2023 オンライン PCAGIP の実践と検討. 山口大学教育学部研究論叢, 72, 43-51.
4. 佐藤正幸 2023 学校教育相談におけるカウンセリングマインドの必要性 筑波技術大学テクノレポート, 30(1), 38-42.
5. 田澤安弘 2023 新型コロナウイルス感染症予防対策が対面状況で行われる初回面接と短期療法の治療関係及びアウトカムに及ぼす影響 北星学園大学社会福祉学部北星論集, 60, 1-14.

C.学会発表

1. 姜潤華 2023 誰もがその人らしく居られる「多様性カフェ@オンライン」の試み -ソーシャル・ジャスティスを意識したPCAグループ- 日本心理臨床学会第42回大会研究発表集, 108.
2. 松永佳子・湯谷奈緒子 2023 みんなの表現アート 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 47.
3. 中田行重・村山正治・藤中隆久・南陽子・野村陽子・石田陽彦・永野浩二 2023 現代の対人援助職の研修・訓練としてのPCAGIP法の意義 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 45.
4. 押江隆・浅井伸彦・大石英史・田中とう子 2023 自主シンポジウム：パーソン・センタード・セラピーとオープン・ダイアログの邂逅 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 43.
5. 押江隆・吉永伶奈・宮本麻梨紗 2023 パーソン・センタード・セラピーの立場からみたオープン・ダイアログの一事例 日本人間性心理学会第42回大会プログラム・発表論文集, 76.
6. 白井祐浩 2023 事例検討の方法による効果の違い -一般的事例検討・

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2022）「第Ⅳ部：その他」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 桑村テレサ 2010 外国語教育におけるC.ロジャーズの「学生中心教育」の理論的展開と実践 奈良女子大学博士論文
2. 白井祐浩 2012 PCAグループの効果とそれに影響する要因の検討 九州産業大学博士論文

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

統計

2023年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2023年に公開された関連文献は72篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」16篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」48篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」2篇、「その他」6篇）であった³。

よって、これまでに日本で公開された関連文献は8599篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3641篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2641篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1906篇、「その他」411篇）となった。

なお、「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」と「ベーシック・エンカウンター・グループ」の「追録」で研究論文の数が増えたが、これは、従来ほとんど収録されなかったPCAに関する博士論文を数多く遡及入力したことによるところが大きいことを付言しておく。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者らまで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部 青木剛
E-mail: pca.biblio@gmail.com

³ 学会発表は合計に含まれていない。

Table 日本におけるバーンソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2023.12.31現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	10-14	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計	
来談者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	1	3	1	2	0	1	1	1	185	
バーンソンセンタード・カウンセリング	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	0	2	2	2	0	0	0	570	
(含: 基礎概念)	0	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	8	8	1	2	2	2	0	6	0	117	
遊戯療法も含む	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	349	283	252	47	17	37	22	16	7	6	11	15	2288	
翻訳: 単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	56	
翻訳: 章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	257	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	2	7	3	1	0	3	1	0	0	0	28	
書評	0	0	1	2	0	0	2	9	4	6	15	13	57	22	3	0	5	2	3	1	0	1	146	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	9	11	2	3	3	3	2	1	5	2	3	58		
参考: 別表: 一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	2	10	6	4	8	11	294	
合計 (学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	507	425	342	73	22	48	29	28	11	14	13	16	3647	
体験過程療法	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3	8	6	8	6	3	3	0	0	2	0	2	1	0	45
フォーカシング指向心理療法	0	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	29	0	0	0	0	2	0	0	0	126	
(含: 体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	2	0	0	3	2	0	0	2	6	0	45
論文: 一般	0	0	0	0	1	24	66	99	130	192	401	376	368	71	74	88	85	62	55	33	36	45	2206	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	8	3	0	2	0	0	0	0	1	0	1	28	
翻訳: 章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	12	2	4	6	2	3	2	2	2	1	1	78	
海外文献紹介	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	0	0	0	12	
書評	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	0	0	0	4	3	1	103	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	6	17	2	5	4	3	3	0	3	3	62	
参考: 別表: 一般	0	0	0	0	5	11	28	41	41	45	69	139	117	4	14	33	5	10	14	7	14	12	600	
合計 (学会発表は除く)	0	0	0	2	7	6	37	81	116	159	267	461	439	81	91	100	98	84	57	44	47	48	2643	
ベシック・エンカウンター・グループ	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	6	2	0	0	1	0	1	0	0	0	29	
(含: グループカウンセリング)	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	1	1	0	0	0	0	146	
論文: 特集	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	21	
論文: 一般	0	0	3	0	37	121	247	296	284	156	217	145	114	37	8	19	14	14	13	2	3	2	1642	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
翻訳: 章	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
書評	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	44	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	6	6	1	2	1	2	1	2	0	1	0	29	
参考: 別表: 一般	0	0	1	0	28	40	44	54	42	29	45	55	43	5	14	10	9	9	8	2	3	2	443	
合計 (学会発表は除く)	0	1	4	2	46	149	270	226	340	196	248	169	135	45	9	19	16	15	15	2	3	2	1912	
その他	0	0	0	4	2	2	0	0	3	1	5	7	7	2	1	0	0	0	1	0	1	1	37	
(教育・経営など)	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	31	
論文: 特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	8	
論文: 一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	39	52	9	2	7	10	7	3	7	11	5	288	
翻訳: 単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	12	
翻訳: 章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2		
書評	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	4	3	1	2	0	0	0	0	0	0	19	
参考: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	2	1	2	1	3	0	1	19	
参考: 別表: 一般	0	0	0	0	6	0	4	0	1	3	1	16	1	26	6	8	10	6	3	1	3	2	5	102
合計 (学会発表は除く)	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	70	50	80	16	5	9	10	9	5	7	13	6	414	
総計	6	21	168	269	200	391	626	642	867	972	1286	1083	996	215	127	176	153	136	88	67	76	72	8616	

(注) データは坂中による一連の「日本におけるバーンソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズに基づいた。